

保育と福祉の話し合い（報告）

開催日：令和7年9月29日（月）13：00～15：00

参加者：こども保育課 服部氏、酒井氏、障がい福祉課 乗竹
吉村部会長、のびろ 辻氏、事務局 坪田氏、柄谷氏

1. ケースの共有

障がい特性が強く（重度の知的障がいと肢体不自由を併せ持つ）、支援が必要な園児に対し、本人や保護者希望ではなく、保育士不足等の環境的に保育が難しいために個別保育や学年外のクラスで保育をしているケースが見受けられた。

2. 今回のケースは地域課題となるか

保育課としては、身体面等の発達状況によって保護者の了承を得た上で、学年外のクラスで保育をするケースがあったことは把握しているが、今回のケースのような日常的に保護者の同意なく、学年外のクラスで保育をしているとの報告は聞いたことがない。監査等でも把握はしていない。

3. 園における障がい児支援の取組

- ・ふれあい保育推進事業や障がい児保育事業にて、保育士等を加配し保育の実施
- ・保育カウンセラーによる気になる子の相談
- ・園で困ったことがあった場合は保育課に相談
- ・園の指導監査や園長会にて支援の在り方を確認、話し合いを行う
- ・ケース会議の開催（必要時、行政も介入し話し合いを行う）

4. 園における障がい児支援を推進させるための意見や案

- ・学年外のクラスでの保育の状況について現状把握を行い、それをもとに学年外のクラスでの保育について園でも考えてもらうきっかけにできるのではないかな。
- ・園に障がい児支援で困っていることや園がどうなったら障がい児の受入れができるかを調査してみてもどうか。
- ・園児のその年齢で受けることができる保育の権利について、保育士に考えてもらえる機会があるのではないかな。
- ・小学校への移行会議には、福祉側も呼んでもらい、一緒に考えていけると良い。
- ・保育カウンセラーと児童発達支援センター職員の園への助言に相違が生じないように、一緒に訪問するなど連携できると良い。